

【天国への手紙

2020年8月23日放送分】

としおへ

ラジオネーム：そよかぜ（85歳 男性）

8月…。この季節になると、新聞やテレビ、ラジオなど、各メディアでは終戦の特集が組まれる。

あれからもう、75年が過ぎた。

1945年3月、東京大空襲で街は壊滅状態。

私は青森へ、としおは広島へと、それぞれ疎開していた。

まさか、8月6日のピカドンで、一生の別れとなるなんて思わなかった。

小学校からの付き合いで、毎日のようにお互いの家を行き来していたよな。戦争が始まる前から、街の中は

憲兵が歩き回り、ざわざわし始めたが、子供だった

我々には関係なく、ラジオを聞いていたよな。

ラジオから流れてくる音楽も、日に日に勇ましいものに変わっていき、その時は突然訪れた。

1941年12月8日のお昼、真珠湾攻撃を知らせる

ニュース。ついに始まったのか、と2人で話したこともはっきり覚えている。

その時は、日本の勝利を信じて疑わなかった。

それなのに、あの空襲。

この時は、ラジオでも多くの事を伝えはしなかったが、人づてに、東京が焼け野原になったことを聞いた。

疎開で別れる際、「絶対にまたここで会おうな」と約束した。お互い疎開した後も手紙のやり取りをし、「いつかまた会える日を楽しみにしているよ。また東京で。」と

お互い書いたのに、その約束は果たされることはなかった。

終戦後、私は津軽海峡を渡り、函館へやってきた。

東京へ戻ることはなかった。私もまた、約束を守れなかった。

45歳の時、私は原爆ドームを訪れた。としおは、どんな風に

この世を去ったのか。想像したらもう涙も出なかった。

ラジオを聞くのが大好きだったとしお。

そのラジオから戦後まもなく、この歌が流行した。

こんなに明るくて希望に満ちた歌は、私たちが一緒に

聞いていたラジオにはなかった。一緒に聞きたかった。

きっと、もう少しで会えるだろう。

その時は、この曲『リンゴの唄』と一緒に聞こう。

リクエスト曲

＜ リンゴの唄

／ 並木路子

＞